

第 31 回慶應医学賞受賞者決定

慶應義塾は、1996 年から医学・生命科学の領域において顕著かつ創造的な業績を挙げ、今後さらなる世界的な活躍が期待される研究者を顕彰してきました。過去には、本賞受賞者からノーベル賞受賞者を 13 名輩出しており、国内の大学において他に類を見ない顕彰制度です。31 回目を迎えた本年の慶應医学賞受賞者は、京都大学の小川誠司博士と、マックス・プランク生化学研究所の F. Ulrich Hartl 博士の 2 名に決定いたしました。

1. 第 31 回慶應医学賞受賞者

小川誠司（おがわ せいし）博士

京都大学医学研究科腫瘍生物学講座 教授
京都大学高等研究院ヒト生物学高等研究拠点（WPI-ASHBi）主任研究者
近畿大学医学部革新的医学講座 特別招聘研究教授

◆授賞研究テーマ

「先端ゲノム解析によるがんの発生・進化原理の解明」



F. Ulrich Hartl

（F. ウルリッヒ・ハートル）博士

マックス・プランク生化学研究所 教授／細胞生物化学部門 ディレクター

◆授賞研究テーマ

「分子シャペロンによるタンパク質フォールディング機構の解明と展開」



2. 授賞式および受賞記念講演会について

授賞式ならびに受賞記念講演会を以下の通り開催いたします。イベント欄への掲載ならびにご取材いただけますようお願い申し上げます。

日 時：2026 年 11 月 26 日（木）14 時～17 時 30 分
会 場：慶應義塾大学信濃町キャンパス北里講堂（北里記念医学図書館 2 階）
交 通：JR 総武線・信濃町駅下車徒歩 2 分、都営大江戸線・国立競技場駅下車徒歩 5 分
参 加：対面のみ、招待者限定
使用言語：英語（同時通訳なし）

詳細は、決定次第「慶應医学賞」ウェブサイトに掲載いたします。

<https://www.ms-fund.keio.ac.jp/prize/>





第 31 回慶應医学賞受賞者の紹介

小川 誠司（おがわ せいし）博士

京都大学医学研究科腫瘍生物学講座 教授

京都大学高等研究院ヒト生物学高等研究拠点（WPI-ASHBi）主任研究者

近畿大学医学部革新的医学講座 特別招聘研究教授

1962 年 8 月 12 日生まれ（64 歳）

1. 授賞研究テーマ「先端ゲノム解析によるがんの発生・進化原理の解明」

小川誠司博士は、先端ゲノム解析を駆使して、多様ながんの遺伝子異常と発症機構を明らかにしてきました。初期の研究では、SNP アレイを用いたコピー数解析を軸に、骨髄系腫瘍の *CBL*、悪性リンパ腫の *A20*、神経芽細胞腫の *ALK* などの重要ながん関連遺伝子の異常を発見しました。さらに、次世代シーケンサーを用いて、骨髄異形成症候群における RNA スプライシング因子やコヒーシ複合体の変異を同定しました。また、急性骨髄性白血病、成人 T 細胞白血病・リンパ腫、神経膠腫、腎細胞がんなど多様ながんに加え、前白血病状態として注目されるクローン性造血や再生不良性貧血へと研究を広げ、各々の遺伝子異常やエピゲノム状態の全体像とそれらの臨床的意義を解明しました。近年は、がん組織のみならず正常組織に蓄積する体細胞変異を解析し、食道、乳腺、炎症性腸疾患を伴う大腸などにおいて、正常細胞からがんに至るクローン進化の過程を明らかにしています。これらの研究は、がんの遺伝学的基盤とクローン進化の解明に大きく貢献し、がんの発生・進化原理の理解から疾患分類、予後予測、治療法開発に至るまで、がん研究に大きな変革をもたらしました。

2. 略歴

学歴

1988 年 3 月 東京大学医学部医学科卒業

1992 年 3 月 東京大学大学院医学系研究科第一臨床医学専攻博士課程修了

職歴

1988 年 6 月 東京大学医学部附属病院 内科研修医

1993 年 4 月 東京大学医学部附属病院 非常勤医員

1996 年 2 月 日本学術振興会特別研究員

1997 年 4 月 東京大学医学部附属病院 第三内科 助手

2002 年 9 月 造血再生医療寄付講座 特任准教授

2006 年 10 月 21 世紀 COE プログラム 特任准教授

2008 年 4 月 東京大学がんゲノミクスプロジェクト 特任准教授

2013 年 4 月 京都大学大学院医学研究科腫瘍生物学講座（至現在）

2015 年 7 月 スウェーデン カロリンスカ研究所 客員教授 兼任（2022 年 6 月まで）

2025 年 4 月 近畿大学医学部革新的医学講座 特別招聘研究教授 兼任

主な受賞歴

2016 年 上原賞

2017 年 文部科学大臣表彰 科学技術賞

2017 年 武田医学賞

2017 年 高峰記念第一三共賞

2018 年 紫綬褒章

3. 受賞者からのコメント

このたびは、栄誉ある慶應医学賞を賜り、誠に光栄に存じます。これまでご指導、ご支援をいただいた諸先生方、共同研究者、研究室のメンバー、そして研究にご協力くださった患者さんとそのご家族に、心より感謝申し上げます。「いったいなぜ人はがんになるのか」という問いは、研究を始めた頃から抱き続けてきた私の根源的な関心でした。その答えを求めて研究を進める中で、正常組織にも加齢とともに体細胞モザイクが広く形成されることが明らかになりました。これは当初予想していなかった展開でしたが、がんの理解を目指して始めた研究が、加齢やさまざまな疾患の理解にもつながりつつあります。本受賞を励みとして、この研究をさらに深め、生命科学と医学の発展に少しでも貢献できればと願っています。



第 31 回慶應医学賞受賞者の紹介

F. Ulrich Hartl (F. ウルリッヒ・ハートル) 博士

マックス・プランク生化学研究所 教授／細胞生物化学部門 ディレクター

1957 年 3 月 10 日生まれ (69 歳)

1. 授賞研究テーマ「分子シャペロンによるタンパク質フォールディング機構の解明と展開」

タンパク質のフォールディングは生命活動に必須であり、従来はアミノ酸配列に規定されて自発的に進行すると考えられていました。しかし、高濃度のタンパク質が存在する細胞内で、どのように正確なフォールディングが達成されるのかは長年の謎でした。Hartl 博士は、細胞内ではヒートショックプロテイン (Hsp) などの分子シャペロンが ATP 依存的に新生タンパク質のフォールディングを補助し、凝集を防ぐことを初めて実証しました。この発見は、「タンパク質は細胞内で分子シャペロンの助けを受けて折りたたまれる」という新たなパラダイムを確立し、生命科学の教科書を書き換える画期的な業績となりました。さらに、シャペロン複合体の構造・機能や複数のシャペロンが連携するシャペロンネットワークを解明し、細胞内タンパク質品質管理機構の理解を飛躍的に発展させました。また、フォールディング異常によるタンパク質凝集が神経変性疾患などの発症に深く関与することを示し、創薬研究の基盤を築きました。これらの業績は基礎医学から臨床医学まで極めて大きな影響を与えており、慶應医学賞にふさわしい業績といえます。

2. 略歴

学歴

1982 年	M.D., University of Heidelberg
1985 年	Dr. med., University of Heidelberg, Laboratory of Prof. H. Schimassek, Institute of Biochemistry Title: <i>The Regulation of Rat Liver Peroxisomal Metabolism by Thyroid Hormones.</i>
1990 年	Dr. med. habil, University of Munich, Institute of Physiological Chemistry, Chair of Prof. W. Neupert Title: <i>Topogenesis of Mitochondrial Proteins: Mechanisms of Sorting and Assembly of Proteins into the Mitochondrial Subcompartments</i>
1985-86 年	Postdoctoral Fellow in the laboratory of Prof. W. Neupert at the Institute of Physiological Chemistry, University of Munich
1989-90 年	Postdoctoral Fellow in the laboratory of Prof. W. Wickner, University of California at Los Angeles, Fellow of the Deutsche Forschungsgemeinschaft (German Research Council)

職歴

1987-1990 年	Group leader, Institute of Physiological Chemistry, University of Munich
1991-1992 年	Associate Member, Program in Cellular Biochemistry & Biophysics, Sloan Kettering Institute, New York, Associate Professor of Cell Biology and Genetics, Cornell University, Graduate School of Medical Sciences, New York
1993-1997 年	Member (with tenure), Program in Cellular Biochemistry and Biophysics, Sloan-Kettering Institute, New York, Professor of Cell Biology and Genetics, Cornell University, Graduate School of Medical Sciences, New York
1994-1997 年	Associate Investigator, Howard Hughes Medical Institute
1997 年	Director and Scientific Member, Max Planck Institute of Biochemistry, Martinsried, Germany
1997 年	Honorary Professor, Medical Faculty and Faculty of Chemistry and Pharmacy, University of Munich
2000-2003 年	Managing Board of Directors, Max Planck Institute of Biochemistry
2002 年	Executive Director, Max Planck Institute of Biochemistry (on rotation)
2009-2011 年	Managing Board of Directors, Max Planck Institute of Biochemistry
2010 年	Executive Director, Max Planck Institute of Biochemistry (on rotation)
2016-2018 年	Managing Board of Directors, Max Planck Institute of Biochemistry

2017 年	Executive Director, Max Planck Institute of Biochemistry (on rotation)
2022-2024 年	Managing Board of Directors, Max Planck Institute of Biochemistry
2023 年	Executive Director, Max Planck Institute of Biochemistry (on rotation)

主な受賞歴

2004 年	Gairdner Foundation International Award, Canada
2010 年	Dr H.P. Heineken Prize for Biochemistry and Biophysics, Netherlands
2011 年	Lasker Award for Basic Medical Research, USA
2012 年	Shaw Prize in Life Science and Medicine, Hong-Kong
2020 年	Breakthrough Prize in Lifesciences, USA

3. 受賞者からのコメント

2026 年慶應医学賞の受賞者の一人として選出いただき、選考委員会の皆様に心より感謝申し上げます。分子シャペロン介在性タンパク質フォールディング機構の解明、ならびにタンパク質凝集を伴う神経変性疾患における分子シャペロンの重要な役割の解明への私の貢献に対して、このような栄誉ある評価を賜り、大変光栄に存じます。とりわけ、これまで共に研究に携わる機会に恵まれた多くの優秀な学生およびポストドクの皆さんの貢献に、深く感謝申し上げます。純粋な好奇心から始まった研究が、最終的には医学的意義を有する予期せぬ知見をもたらし、新たな治療法の開発につながることを願っております。



慶應医学賞について

1. 慶應義塾医学振興基金設置の経緯

1994 年秋に本学医学部の卒業生である坂口光洋（さかぐちみつなだ）氏（1940 年卒業）から「義塾における医学研究の奨励と創造的発展に貢献するとともに、世界の医学の進歩に寄与する」ことを念願して浄財 50 億円が寄付されました。これを受けて慶應義塾は、『慶應義塾医学振興基金』を設置し、1995 年 4 月 1 日より活動を開始いたしました。さらに 1999 年 7 月には 20 億円の追加寄付を得て、総額 70 億円をもとに慶應医学賞の授与、医学国際交流事業、医学研究奨励事業、医学研究助成事業、坂口光洋記念講座という基金事業を行っています。

2. 慶應医学賞の目的

世界の医学・生命科学の領域において医学を中心とした諸科学の発展に寄与する顕著、かつ創造的な研究業績をあげた研究者を顕彰することにより、世界の医学・生命科学の発展に寄与し、ひいては人類の幸福に貢献することを目指します。

3. 審査・選考および概要

世界各国の著名な研究者および研究機関から推薦された候補者の中から、数次にわたる厳正な審査を経て、最終審査委員会で学内外 17 名の審査委員が受賞者を決定しています。受賞者には、賞状とメダルおよび賞金 1,000 万円がそれぞれに贈呈されます。

第 31 回慶應医学賞審査委員：

佐藤 俊朗	委員長・慶應義塾大学医学部医化学 教授
家田 真樹	慶應義塾大学医学部内科学（循環器）教授
片岡 圭亮	慶應義塾大学医学部内科学（血液）教授
金井 隆典	慶應義塾大学医学部内科学（消化器）教授
仲嶋 一範	慶應義塾大学医学部解剖学 教授
花岡 健二郎	慶應義塾大学薬学部薬科学科 教授
林 香	慶應義塾大学医学部内科学（腎臓・内分泌・代謝）教授
牧野 浩史	慶應義塾大学医学部生理学 教授
審良 静男	大阪大学ワクチン開発拠点先端モダリティ・ドラッグデリバリーシステム研究センター 拠点長
大隅 典子	独立行政法人日本学術振興会 理事
	東北大学 名誉教授・客員教授
河岡 義裕	東京大学新世代感染症センター 特任教授
	国立国際医療研究センター 国際ウイルス感染症研究センター センター長

斎藤 通紀	京都大学大学院医学研究科 教授 京都大学高等研究院ヒト生物学高等研究拠点 (WPI-ASHBi) 拠点長
高橋 淑子	京都大学大学院総合生存学館 特定教授
濡木 理	東京大学大学院理学系研究科 教授
森 和俊	名城大学薬学部 教授
柳沢 正史	筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構 (WPI-IIIS) 機構長・教授
柳田 素子	京都大学大学院医学研究科腎臓内科学講座 教授

4. ノーベル賞を受賞した歴代の慶應医学賞受賞者（敬称略）

第1回（1996年）	Stanley B. Prusiner（1997年ノーベル生理学・医学賞受賞） 「プリオンの発見とプリオン病の解明」
第4回（1999年）	Elizabeth Helen Blackburn（2009年ノーベル生理学・医学賞受賞） 「テロメアとテロメラーゼ」
第7回（2002年）	Barry J. Marshall（2005年ノーベル生理学・医学賞受賞） 「Helicobacter pylori の分離培養と診断、治療法の確立」
第9回（2004年）	Roger Y. Tsien（2008年ノーベル化学賞受賞） 「生きた細胞内のシグナル伝達の可視化と計測技術の開発」
第11回（2006年）	Thomas A. Steitz（2009年ノーベル化学賞受賞） 「リボソームの構造解明及びそれに基づく次世代抗菌薬の開発」
第13回（2008年）	坂口 志文（2025年ノーベル生理学・医学賞受賞） 「制御性T細胞の発見と免疫疾患における意義の解明」
第15回（2010年）	Jules A. Hoffmann（2011年ノーベル生理学・医学賞受賞） 「昆虫における自然免疫システムと Toll 受容体の発見」
第18回（2013年）	Victor R. Ambros（2024年ノーベル生理学・医学賞受賞） 「microRNA の発見とその作用機構に関する研究」
第20回（2015年）	大隅 良典（2016年ノーベル生理学・医学賞受賞） 「オートファジーの分子機構の解明」
第21回（2016年）	本庶 佑（2018年ノーベル生理学・医学賞受賞） 「PD-1 分子の同定と PD-1 阻害がん免疫療法原理の確立」
第21回（2016年）	Svante Pääbo（2022年ノーベル生理学・医学賞受賞） 「人類進化の分子遺伝学への貢献」
第26回（2022年）	Katalin Karikó（2023年ノーベル生理学・医学賞受賞） 「メッセンジャーRNA ワクチン開発につながる基礎研究」
第29回（2024年）	Demis Hassabis（2024年ノーベル化学賞受賞） 「脳の計算原理に基づく人工知能による医学生物学研究の変革」

以上

※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

＜本発表資料に関するお問い合わせ先＞

＜発信元＞

慶應義塾医学振興基金事務室（本間、牛島、崎田）
TEL：03-5363-3609 FAX：03-5363-3215
E-mail：k-msf@adst.keio.ac.jp
<https://www.ms-fund.keio.ac.jp/>

慶應義塾大学信濃町キャンパス総務課（飯塚、加納）
TEL：03-5363-3611 FAX：03-5363-3612
E-mail：med-koho@adst.keio.ac.jp
<https://www.keio.ac.jp/ja/med/>